

2017年度 年次報告

第25期 2017年4月1日から2018年3月31日

2017年度総括および 2018年度展望について

代表理事 中田豊一

2017年度は、前年にも増して活動が充実してきた反面、すぐには資金獲得に結び付かず、やり繰りに追われる年になりました。しかし、会員・支援者のご協力を得て、何とか乗り切ることができました。おかげさまで、2018年度はその果実を収穫できる年になりそうです。

2017年度、国内でもっとも注力したのは、「子育てファシリテーション」でした。母親ひとりでの子育てするという人類の歴史から見れば異常としか言いようのない「ワンオペ子育て」を克服するために、メタファシリテーション手法を活用しようという試みです。西宮の子育てグループ「ア・リトル」との幸運な出会いもあって、活用の方が広がりがつあります。

海外では、セネガルでのプロジェクトが本格的に動き出しました。駐在員が赴任し、村での研修が始まり、短い期間にも関わらず、農民たちの意識と行動が目に見えて変わっています。2018年度からは、こうした成果と手法を、映像などを使って日本の皆さまに広く伝えながら、手法の普及と人材の育成に力を入れていく予定です。

2012年から始まったネパールのバグマティ川の浄化と環境教育を通じて地域のつながりを取り戻す活動は、2017年度からムラのミライからの直接関与は最小限に抑え、現地住民に活動の主体を移していくことに注力しています。2019年まで続け

る予定です。

さらには、2年あまりかけて準備してきた「住民参加型持続的地下水資源統合管理プロジェクト」がようやく立ち上がり、その開始作業が始まっています。このプロジェクトは、いわゆるドナーを挟まず、イラン政府から直接委託されて実施を担うものです。これまで経験したことがないほどの大掛かりな事業なのですが、イランを巡る国際情勢がますます流動的になっているため、順調に進めて行けるかどうか、予断を許さない状況が続いています。そのへんも含め、適宜、皆さまに報告していくつもりです。

こうした中、当面の最大の課題は、何と云ってもメタファシリテーション手法を駆使できる人材の育成です。着実に育ってきているものの、海外の現場での即戦力や講座や研修の多用な要請に柔軟に対応していける人材はまだ限られているのが実情です。

とはいえ、当会は、仕事のために生活があるのではなく、生活のために仕事があるという原則を貫いています。スタッフの過重労働により労働力の帳尻を合わせたりはしません。さらには、「充実した生活って何だろう？」というような抽象的な問いを問いかけたままに終わらせず、実体化していくためにもメタファシリテーション手法を活用しています。

こうして、様々な切り口で社会と生活に切り込んで行けるようになりつつあるのは本当に喜ばしいことです。皆さまのさらなるご参加とご協力を期待しています。

土と水を守り、活用するための農業研修がスタート！

2017年度の活動

モデル農家養成研修

- ・ 雨水の流れと土壌侵食、水・土の保全対策
- ・ 作物の科と輪作を活用した栽培計画
- ・ 研修内容の振り返りと農作業工程の収支計算

について、計3回の研修を実施しました。

また、研修後の課題の進捗状況の確認や次のアクションの打合せのためモニタリングを計7回実施しました。

「ファーマーズ・スクール」の整備と計画

プロジェクトを開始してから、実際に参加してくる農家の農地との距離や、研修施設の建設実効性の難しさから、「ファーマーズ・スクール」の位置づけを変えました。

■成果

研修に参加した農民たちが、上記モデル農家養成研修で扱った農業をする上での基本的な事項を理解し、以下を実践するようになりました。

- ・ より効率的、効果的な水やり方法の導入
- ・ 水と土を保全する対策を住民（研修未参加者）と共有し、研修生の畑で対策を実行
- ・ 作物の科に留意した効率的な栽培計画の策定

■課題

地域資源へのアクセスの制約（土地の所有権の問題など）や、それぞれの村で今後、どのように知恵や実践を普及させていくかが、課題として見えてきました。

2018年度の活動計画

ファーマーズ・スクールの整備

地域資源を活用した農業モデルを実践・普及する場として、ファーマーズ・スクールを整備していきます。

モデル農家養成研修

地域資源を活用した農法を実践し、持続的な農業経営を行える青年を養成し、指導員養成研修を実施していきます。

指導員の養成

自分たちの村や他の村の住民に対して研修を実施する指導員を養成していきます。

PROJECT DATA

地域資源の循環による農村コミュニティ生計向上プロジェクト～農村青年層のための「ファーマーズ・スクール」

どこで セネガル共和国ティエス州ンブル県ンゲニエヌ行政村

だれと 16～24歳までを中心とした青年300人
（JICA「草の根技術協力事業パートナー型」）

なにを セネガル農村部に住む主に若年層の農業従事者が、自分たちの地域において、自然資源を活用しながら農業で生計を立てられることを目標とした事業。水や土を守りながら農業の効率性を上げる知恵を共有し、実践を定着・普及させていくために、研修や農業実践の場の提供（ファーマーズ・スクール）を通して、農民たちの活動を支援します。



ゴミを減らすには、 まず自分の身の周りを知ることから

2017年度の活動

分散型排水処理施設（DEWATS）の建設

バグマティ川に流れ込む家庭排水を浄化するための分散型排水処理施設（DEWATS）1基を建設。建設と並行して、環境保全に向けた行動を起こすのは自分自身であることへの理解を促す研修や、施設の維持・管理に必要なコストやルールを決めていく研修を行いました。

ゴミ分別ための教材の作成

エコレンジャーの活動や学び、実践事例をふりかえり、事業終了後にも地域住民に広く配布できるよう、手軽にゴミの仕分け方を参照できるリーフレット（ネパール語10,000部、英語400部）と、じっくり読むブックレット（ネパール語8,400部、英語400部）の2種類の教材を制作しました。エコレンジャーたちのネットワークづくりや、さらなる研修の実施、ゴミ分別回収場所の設置に向けた準備などが進められています。

ゴミ箱から世界を見よう！ゴミ組成調査

6～8年生の生徒や担当教員を対象に、学校や家庭から出るゴミにはどんなものがあるか、ゴミの性質を明らかにするための授業として、学校の“ゴミ組成調査「ゴミ箱から世界を見よう」”を6校にて実施。授業の内容を考え、ファシリテートしたのは、ムラのミライと一緒に活動してきた地域の女性たちです。

2018年度の活動計画

アクション・プランの作成と実践サポート

学校や地域住民からの「地域でゴミを分別回収する場所をつくる」、「生ゴミを捨てずに堆肥にして、近くの農家たちと取引する」「ゴミの分別回収を業者に訴えかける」といったアイデアを実現可能で、継続できるものとするために、いつ、誰が、誰と、何をするのか、コストはいくらかかるのか…といった具体的なアクションに落とし込んでいくための作業をサポートします。

PROJECT DATA

環境教育と地域住民主体の環境保全活動を通じた地域コミュニティの強化

どこで ネパール連邦民主共和国カトマンズ郡ゴカルネショール市・カトマンズ市

だれと 上記市内の学校・地域住民 約1,303人

（外務省「日本NGO連携無償資金協力」、トヨタ自動車（株）「トヨタ環境活動助成プログラム」、（公財）リそなアジア・オセアニア財団「環境プロジェクト助成」）

なにを バグマティ川の浄化と環境教育で、地域のつながりを取り戻す活動。2017年度からは、これまでの5年間のムラのミライの活動に参加した地域住民や先生たちが、主体となって環境保全活動に挑戦する学校や家庭を増やすための普及活動を、現地NGOのSOMNEED Nepalとともに支援しています。対象地域の住民が、外部の支援がなくとも、自分たちで活動を継続・展開していくことを目標としています。

西宮で取り組む、 分かり合い、助け合える子育て



2017年度の活動

子育て×メタファシリテーション講座

兵庫県西宮市で子育て中の女性の自立を支援するグループ「a little (ア・リトル)」の協力を得て、子育て中の親やその家族、兵庫県内の自治体職員に、メタファシリテーション講座を実施しました。計3回実施し、65人が参加しました。

2018年度の活動計画

「西宮で助け合う子育て」の現状を知る調査

兵庫県西宮市在住の産前産後の女性とそのパートナー、子育て支援者を対象に、子育ての現状を知るためのアンケートや個別インタビューを実施します。調査員は今、西宮市で子育てをしている女性たち。

- ・行政などの子育て支援制度に対する情報や知識の取得方法・活用例
- ・地図を使った子育て支援の(ひと・場所)資源図
- ・身近な支援者による支援内容 など

について調べていきます。これら調査結果は、次年度講座や助け合う仕組みづくりに活かします。

産前産後の女性およびパートナー／子育て支援者のための講座

- ・産前産後の女性およびパートナーを対象とした産前産後に必要な知識や技術を習得する講座
- ・子育て支援者を対象とした、産前産後の女性支援に必要な技術や知識に関する講座を実施します。

PROJECT DATA

ママの健やかな心と体サポートプロジェクト ～西宮で広げる、地域で助け合う子育ての輪～

どこで 兵庫県西宮市

だれと 産前産後の女性および子育て支援者

(ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会「2018年度助成プログラム」)

なにを 2017年度から、兵庫県西宮市で子育て中の女性の自立を支援するグループ「a little (ア・リトル)」の協力を得て、子育て中の親やその家族、兵庫県内の自治体職員に、メタファシリテーション講座を実施してきました。この経験を活かし、「a little」との協働で、西宮市在住である産前産後の女性たちとそのパートナー、そして子育て支援者を対象に、子育てに関する実態調査および講座を実施します。そして、子育てを支援される／する当事者自らが「地域で助け合える子育てとは何か」を考え、具体的な活動へと発展できるよう、メタファシリテーション手法を用いて支援します。

ここに私が住むとしたら、 どういう生活を築いていくのか？ 「私の暮らし」から出発する、地域計画



2017年度の活動

「ここに私が住むとしたら？」地域計画づくり
2017年度は、全4回の研修のうち、第1回から3回の研修を実施しました。

第1回：事実質問を活用し、地域の人たちから話を聞くフィールドワーク（2017年4月）

第2回：フィールドワークで見つけたことを、「時間」と「空間」の2つの軸で分析する（2017年8月）

第3回：地域計画を作ってみる（2018年1月）
座学とフィールドワークを組み合わせ、研修参加者は事実質問を活用しながら、時間軸・空間軸で集落を捉える視点を学びました。そして、「自分がここに住むとしたらどんな集落を形成したいか」という視点で、地域に暮らすひとりひとりの生活を細分化する中から、地域計画に盛り込む要素を抽出・検討しつつあります。

2018年度の活動計画

地域計画の最終化と共有

全4回の研修のうち、最終となる第4回を実施します。第1回～3回の研修を通じて検討してきた地域計画を最終化し、研修実施地域のみなさんと共有します。

PROJECT DATA

コミュニティファシリテーターを育てる実践研修
～メタファシリテーションを用いた、住民主体による地域づくり～

どこで 沖縄県名護市久志地区

だれと 途上国や国内での地域づくりに関する活動を行っているNGO等の職員19人、研修実施地域の区長12人、名護市職員25人

（JICA「NGO等提案型プログラム」）

なにを 沖縄県名護市との協働による研修プログラム。3泊4日×全4回シリーズの研修で、地域コミュニティによる課題分析→活動の形成・実施・・・というプロセスを実際に起こしていくことのできるファシリテーターを育成していきます。



2017年度の活動

メタファシリテーション手法を学ぶ講座

メタファシリテーション手法を広める講座・研修を日本、ネパール、スリランカで開催しました。

- ・入門セミナー：23回開催し、210人が参加
- ・基礎講座Ⅰ：40回開催し、320人が参加
- ・基礎講座Ⅱ：4回開催し、24人が参加

フィールドでメタファシリテーション手法を実践する研修

日本でのフィールド研修

・獣害対策から地域づくりへ「猪！鹿！鳥！やっぱりヒト！」集落の現実を見るメタファシリテーション・スキルのススメ！！（岐阜県郡上市）：17人が参加

海外でのフィールド研修

- ・コミュニティファシリテーター研修（インド）：5人が参加



書籍販売

『途上国の人々との話し方』をはじめとする書籍を販売。『対話型ファシリテーションの手ほどき』は好評につき、第三刷を発行しました。

専門家派遣

理事・職員・契約コンサルタントを他団体のプロジェクトや研修・授業・講演等に派遣しました。

海外への専門家派遣

- ・プロジェクト・調査への専門家派遣：3件
- ・講座への講師派遣：2件

国内での専門家派遣

- ・プロジェクトへの専門家派遣：1件
- ・講師派遣：19件

2018年度の活動計画

セネガルの現場を撮影した映像教材の作成、発信

2017年度に引き続き、メタファシリテーション講座、書籍販売、専門家派遣を実施。

また、セネガルでの研修の様子や、村人へのインタビューの様子をまとめた映像教材を作成。研修・セミナーでの活用や、オンラインで発信します。

（パナソニック（株）「Panasonic サポートファンド for アフリカ」）

■活動計算書

(2017年4月1日～2018年3月31日)

(単位：円)

科目	金額
I 経常収益	
1. 受取会費	533,000
正会費	533,000
2. 受取寄付金	6,027,151
個人	4,690,095
企業・団体	1,337,056
3. 受取助成金等	2,047,400
受取民間助成金	1,988,000
受取国庫補助金	59,400
4. 事業収益	35,922,698
自主事業収益	10,528,629
JICA受託事業収益	25,274,069
政府・自治体受託事業収益	0
企業等受託事業収益	120,000
5. その他収益	27,714
受取利息	15
雑収益	27,699
経常収益計	44,557,963
II 経常費用	
1. 事業費	12,621,199
(1)人件費	10,892,507
給与手当	1,728,692
法定福利費	27,153,092
(2)その他経費	
事業費計	39,774,291
2. 管理費	
(1)人件費	1,758,829
給与手当	1,517,927
法定福利費	240,902
(2)その他経費	1,271,098
管理費計	3,029,927
経常費用計	42,804,218
当期正味財産増減額	1,753,745
前期繰越正味財産額	1,568,933
次期繰越正味財産額	3,322,678

■貸借対照表

(2018年3月31日現在)

(単位：円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
(1) 現預金	7,104,846	
(2) 未収金	2,095,682	
(3) 棚卸資産	868,584	
(4) 仮払金	93,191	
流動資産合計		10,162,303
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
什器備品	0	
有形固定資産計	0	
(2) その他資金		
保証金	397,000	
その他資金計	397,000	
固定資産合計		397,000
資産合計		10,559,303
II 負債の部		
1. 流動負債		
(1) 未払金	5,061,827	
(2) 前受金	1,922,000	
(3) 未払消費税	0	
(4) 未払法人税等	72,000	
(5) 預り金	180,798	
流動負債合計		7,236,625
2. 固定負債		
(1) 有形固定負債	0	
(2) その他の負債	0	0
負債合計		7,236,625
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	1,568,933	
当期正味財産増減額	1,753,745	
正味財産合計		3,322,678
負債及び正味財産合計		10,559,303

監査報告書	
2018年5月10日	
特定非営利活動法人 ムラのミライ 代表理事 中田豊一 殿	
特定非営利活動法人 ムラのミライ 監事 岡本真弘  監事 河合将生 	
特定非営利活動法人ムラのミライ定款48条の規定に基づき、活動計算書、諸帳簿、および関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを証明します。	
以上	

2017年度については、収支ともにほぼ年度予算どおりの執行となりました。イラン事業の開始が当初予想（2017年度後半）より遅れ、厳しい資金繰りにも直面しましたが、セネガル事業へのご寄付、メタファシリテーション講座・研修の実施により、年度予算をやや上回る収入となりました。

今後は、不測の事態に対する財政的な備えが課題です。特に、イランでの事業が本格化するにあたり、イランに対するアメリカの経済制裁等、現地情勢が流動化する懸念が大きく、事業実施にあたり、不測の事態に対する財政面・運営面での備えが必要です。

2017年度 ムラのミライの活動を 支えてくださったみなさま

会員・サポーター

正会員：51人、サポーター会員：126人

(2018年5月現在)

一般寄付（個人）	2,631,195円
セネガル事業へのご寄付	1,051,756円
郡上若手サポート募金	76,000円
書き損じはがきのご寄付	212枚
企業団体からのご寄付・法人会費	1,190,000円

ご支援をありがとうございました

ムラのミライ役員・スタッフ（2017年度）

理事・監事

代表理事	中田豊一：参加型開発研究所 所長
副代表理事	山田貴敏：笠原木材株式会社 代表取締役社長
専務理事	宮下和佳：（特活）ムラのミライ 事務局
常務理事	大塚由美子：笠原木材株式会社 職員
理事	小森忠良：元十六総合研究所 主席研究員
理事	和田美穂：社会福祉士
理事	久保田絢：愛知淑徳大学 ビジネス学部 講師
理事	山岡美翔：（特活）ムラのミライ 事務局
監事	河合将生：NPO組織基盤強化コンサルタント office musubime 代表
監事	岡本眞弘：税理士法人岡本会計事務所 代表税理士

契約コンサルタント 和田信明、原康子、M. Ramaraju

メタファシリテーション認定講師 松浦史典、久保田絢、近藤美沙子、永田賢介

事務局スタッフ 大塚由美子、光本昭子、和田アスカ（高山オフィス、2017年7月まで）
宮下和佳、前川香子、山岡美翔、田中十紀恵（関西オフィス）
菊地綾乃（セネガル駐在）